

2月15日(土)、第4回目となる「協創コンテスト」が行われました。この行事は、教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」(地球的な視野で考え、地域社会と協創する人材の育成)のために必要な”4つの力”(課題解決する力、協創する力、社会参画する力、自己実現する力)の獲得を目指す生徒の取り組み発表の場です。

今年度は、個人の部に12名、団体の部に13組が出場しました。個人の部最優秀賞に高校2年7学級の中川心花さんが選ばれました。カンボジア研修旅行で感じたこと学んだことを「報恩感謝・実践」に繋いでの発表でした。また、団体の部最優秀賞は、新体操部が受賞しました。ステージ上での圧巻のパフォーマンスは見事なものでした。

(右は、個人の部最優秀賞・中川心花さんの発表の様子)



「志」を持つ

4回目となった「協創コンテスト」、回を増すごとに中身が充実してきたように思います。本校の行事の中でも非常に楽しみな行事の筆頭です。学校行事の精選ということが発足した行事であると共に、生徒の自主性を育むための行事の一つでもあります。教育目標「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」に基づき、日頃から”自走”する生徒を育てようというのが本校教員の合い言葉ですが、それを体現する行事なのです。年度末に行われるということもあり、夏休みの取り組みや研修旅行を通じての体験、高校でのプレゼン大会や中学校の「KPC」(協創プレゼンテーションコンテスト)などを経て参加します。また、部活動や友人同士がこの日を目指して参加するなど、さまざまです。

特に個人の部においては、生徒の”自走”を目指す姿が顕著です。最優秀賞の中川さんは、10月に行われたカンボジア研修旅行で感じたこと学んだことをカタチにしました。カンボジア内戦が終了してから50年、地雷撤去などの後遺症が未だ残る中、孤児院で暮らす子どもたちの姿に中川さんは圧倒されました。そのひとつに満足な文房具(筆記用具)が十分でないことに気づきました。日本で生活する私たちは何不自由ない。そのことに気づこう。あの子たちために為せることがある。本校の建学の精神「報恩感謝・実践」になぞり、今こそ実践するときではないかと提案をしました。それは、私たちが寝かせている筆記用具を集め、カンボジアに送ろうというものです。職員室前に置かれた段ボールには、善意の筆記用具が寄せられています。中川さんは、子どもたちの屈託のない笑顔がこのたびの動機にも結び付いたと話していました。

授賞という結果にならなかったものの、思い切って自分が抱えている悩みや特性について、これ

まで取り組んできたことを発表した生徒がいました。「私は、”周りと比べて深く考えすぎたり気にしすぎたりすること” 長時間人というグツツたりしてしまうこと」を悩んでいましたが、『HSP』(Highly Sensitive Person)という言葉・考えに出会いました。それは”刺激に敏感、疲れやすい、気にしすぎ、完璧主義”などの特徴を持っている人のこと。生まれつきの性格や気質として認識されるのではなく、障害や精神病と誤解され、認知度が低いという課題があります。その課題を何とかしたいと思い取り組みました」という発表でした。勇気ある発表に心から拍手を送ります。

さて、先日、外部の方から次のようなメールがありました。「突然のメールで失礼いたします。この度は、貴校の高校2年の石川美波さんの地域での活躍について知っていただくと同時にお礼を申し上げたく、メールした次第です」というものでした。石川さんは、廿日市市地御前で地域行事(とんどや夏祭りなど)の清掃に参加したり、イベントの司会をしたりしているとのこと。また、地域の自主防災会に関心を持ち、定例会にも参加。この度は廿日市市の女子高校生として初の高校生防災士になったとのこと(1月末、岡山市で受講・受検、見事合格)。自主防災会定例会で防災士講座受講の感想を含めた高校生防災士として発表する予定とのこと。などなど、地域のために奔走する石川さんを称賛していただきました。そして、「貴校には文武両道、様々なプログラムがあると聞いています。石川さんのような生徒を育てる貴校、教育に感謝申し上げます」とお褒めの言葉をいただきました。ありがとうございました。

この生徒たちのように、何かを契機として「志」を持ち、継続することは素晴らしいことです。生徒を育て、また、生徒から学ぶことは我々教師の使命であることは言を俟たないことなのです。